

## I. 研修について

小児科は、出生時より小児・思春期を経て成人に至るまでの成長を見守り、未来を担う子供たちの体と心を育み全人的・総合的に医療を行う診療科である。

研修医は、小児科医として日常遭遇する小児疾患について適切に対応するために必要な知識・技能・態度を習得する。具体的には、担当医として入院患者の診察にあたる。病歴の聴取・診察・診断・治療法の決定・治療を行い、診療録にその内容を記載する。すべての行為は、指導医の指導のもとで行う。

## II. 研修の到達目標

小児科医の使命は成長過程にある小児の心身の健康上の問題点を個人・家庭・社会の問題として把握し解決することにある。本プログラムは小児科領域の知識を基に、プライマリケアを行うことができる医師の養成を目指す。医師は小児の人格と人権を尊重できなければならない。

1. 信頼に基づく良好な医師・患者関係を作ることができる。
2. 問題を正しく把握し診断したうえで、患者とその家族に適切な指導と教育ができる。
3. 他の医療関係者と協力してチーム医療を進めることができる。
4. 正しいカルテの記載ができる。

## III. 医師数[うち臨床研修指導医数] (平成 29 年 3 月現在)

- ・常勤医師 5 名 [3 名]
- ・非常勤医師 2 名

## IV. 学会認定医・専門医・指導医 (平成 29 年 3 月現在)

日本小児科学会認定専門医(4 名)

日本血液学会認定血液専門医(2 名)・指導医(1 名)

日本がん治療認定医機構がん治療認定医(1 名)・暫定教育医(1 名)

小児血液・がん専門医(2 名)・指導医(1 名)

造血細胞移植認定医(2 名)

## V. 施設認定

日本小児科学会認定医制度研修施設

日本内分泌学会認定教育施設[小児科]

日本小児血液・がん専門医研修施設

